

連載 47

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部
教授 平岡祥孝

さて 大学3年生も、就職活動

が本格的な開始が近づいてきたね。準備不足のまま活動を始めると、不安と焦りに追い詰められます。「就活バス」に乗り遅れても心配無用。次のバスに余裕を持って乗ればいいだけ。けれども、バスの乗り間違いは不幸の始まり。市民派マラソンランナーのように他者と比べることなく、あくまでもマイペースで。順位よりも完走すること、すなわちやり遂げることに意味あり。オンラインワンの人生ですからね。

ところで経団連が2014年9月に発表した「新卒（14年4月採用）に関するアンケート」によれば、企業が採用選考で重視した項目はやはり「コミュニケーション能力」が82・8%で第一位でした。経団連企業会員660社が重視した点を25項目から選択した結果です（『北海道新聞』2015年1月17日朝刊記事）。キャリア系科目あるいは就職関連のガイダンスやセミナーでは、コミュニケーションの授業や説明は枚挙に遑なし。さもありなん。

おおよそ社会生活を営む上で意

志疎通は必要不可欠。会話や対話そして報告・相談・連絡を臨機応変に出来ることは望ましいことです。いつもながらの筆者の独断と偏見ですが、伝える力や話す力もさることながら、話に耳を傾ける姿勢や態度、内容を理解する能力が大切ではないでしょうか。要するに「まずは人の話を聴くこと」でしょう。

したがって、学校社会で傾聴力を伸ばす方法は、何よりも授業に集中することに努力することでしょう。もし不明な点や理解不能な点があれば、担当教員に質問したり、自ら調べたりする。それらに手間暇を惜しまない。学びたい気持ちを忘れずに真摯に学ぶことを日々実践していけば、大願成就となりましょう。真理は単純明快です。遅刻・欠席、居眠り、私語、無断退出、飲食、内職、スマートフォン操作等々、授業態度の悪い生徒・学生には、コミュニケーション能力養成など夢のまた夢。アルバイトや課外活動が中心で「授業はリラックスタイム」との開き直りもご自由。ですが、後悔先に立たずとも結果は明白。

翻って、若者の「コミュニケーション能力のなさ」を嘆く中高年のコミュニケーション能力も、怪しいものです。家族との会話も危うい初老間近な筆者のささやかな観察によれば、コミュニケーション能力が劣っている経営職や管理職

は決して少なくありません。さらに困ったことには、自らのコミュニケーション能力の低さや部下とのコミュニケーション不足を自覚していない輩が散見されます。脚下照顧として自省・省察。ちなみにワンマンコントロールとリーダーシップの混同は、悲喜劇の世界。

とかく部下を引き連れて飲み会三昧、それでコミュニケーションを図っている自信ありげなお方は、大いなる錯覚の持ち主。部下にとつては無能上司の自慢話や説教は迷惑この上なし。阿諛追従に長けたり、聴く振りだけ上達しても困りますよ。

職場を問わず組織運営にあつては、言うまでもなく経営職や管理職にはリーダーシップが求められます。ただしリーダーシップは、充実したコミュニケーションを媒介にしたフォロワーシップの裏づけがあつてこそ発揮されるものです。フォロワーシップなきリーダーシップなど、一人芝居か虚構の世界。ああ、いくつになってもコミュニケーション。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。女子学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

ARTS



ちびっこ*
ギャラリー

上浦幌ひまわり保育園

きりん組のみんな

♪寒い毎日ですが

「子どもは風の子元気な子」です！

外遊びの時にみんなで

「ウラハとホロマ」の雪像を作ったよ！

雪遊びは大好きだから

暖かい春もまちとおしいなあ～



「昨年」の1年を表す漢字「昨」は「税」ということでした。

もちろん消費税が5%から8%に引き上げられたこと、更に年末の突然の解散、衆議院の総選挙に今年10月に消費税を10%の引き上げを1年半伸ばした事を理由にしたことなどに対する反応であることは論を待たないところでありますが、浦幌町にとっても

「税」は「良し悪し」の両面で大きな関わりがありました。「インキと納税」の件数が1万5千件を超える勢いで増えていることが良しとすれば、地方の税収が1兆円以上伸びるといふ国の試算で地方交付税が大幅に減額され、浦幌町は2億5600万円の減となり、昨年に引き続き前年度実績割れとなってしまった事は財政に打撃を与えました。

地方が疲弊した小泉内閣の三位一体を思い出させる本当に残念な国の財政政策であり、地方創生を唱うアベノミクスと真逆の結果といわざるを得ません。

今年には戦後70年、別の言い方では不戦の70年とも言われ

ますが、安倍首相は今年の年頭所感で、「日本は先の大戦の深い反省とともに、平和国家としての道を歩み、世界の平和と反映に貢献した」とも述べています。ただ、自衛隊の海外派兵、憲法改正を進めるとしてあり、友好ムードとは言えない隣国との関係など世界の中で日本の立ち位置がどう理解されるのか課題は山積しております。

年末にフランスでのテロ事件に引き続き、年明け早々にイスラム国の捕虜に取られた日本人一人は最悪な結果となつてしまいました。これまで日本は世界で起きているテロ事件に対してよそ事のように対応してきたように思います。

日本人を標的にすると宣言したイスラム国ですが、一方的に国家樹立を宣言しているだけで国際的に承認されているわけではなくイスラム教を悪用して恐怖政治で支配地域の住民を支配している単なるテロ集団（IS—ラ・アイシル）です。その恫喝に屈することはありませんが、海外では誘発されたテロ組織が活発化

する気配があるとの報道もあり、パスポート発行業務を行っている町としても、海外への渡航者には注意喚起をしなければなりません。

長年にわたり浦幌町の医療を支えていただいておりました「小野寺クリニック浦幌多田医院」が残念ながら閉院されることになりました。

多田医院は故多田政一先生が昭和43年開院以来、地域医療機関として保険嘱託医や学校医としてもご尽力いただいております。

現理事長の小野寺文雄先生は昭和58年に町立診療所に赴任していただいてから翌年榊原政和先生に引き継いでいただくまで町立診療所での診療をしていただき、その後多田医院を経営され、多田医院で診療に当たられておりました片野医師が退職されてからも、ご子息の小野寺悠太医師が浦幌町の診療を引き継ぎながら、週末には小野寺文雄理事長が浦幌まで通ってこられて診察する形で多田医院の経営を継続していただいております。

理事長は栃木県小山市でク

リニックを以前から開設されておられますことから、離れた地での両院経営には無理が生じており、浦幌町の医院を継承してくれる医師を確保するべく奔走していただきましたが、その目途も立たないことから3月末を持って多田医院閉院の決断をせざるを得ないことになりました。

浦幌町としましては歴史のある「小野寺クリニック浦幌多田医院」の閉院は誠に残念であります。小野寺先生には親子2代に渡りまして、浦幌町民の健康増進に寄与していただいたことに心から感謝とお礼を申し上げます。ご子息の小野寺悠太医師には月に1度来町し、月曜日と火曜日に町立診療所にて診察していただけることになりましたことにも重ねて感謝申し上げます。

浦幌町長 水澤一廣